



【新しく出発する愛するあなたへ】

聖書本文: ヨシュア記1章 1-9節/暗唱聖句: ヨシュア記1章 7節

説教者: 鄭南哲牧師

愛するクリスマンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！明けましておめでとうございます！

今日の本文の主人公であるヨシュアに今人生が新しく始まるようとしています。それはモーセの次、神の民たちであるイスラエルの新しい指導者となることでした。ある日、突然、思わぬイスラエル民族の偉大な指導者であったモーセが亡くなりました。突然、去ってしまったモーセの不在にイスラエルの民たちはみんな一瞬不安で右往左往になっていたはずですが、

ところが、新しく指導者となったヨシュアも実はずっと戦っていた勇士ではありませんでしたが、指導者としての霊的な経験も、経歴もない弱い指導者でした。彼にはモーセが持っていた強烈(きょうれつ)なカリスマもありませんでした。そんなヨシュアだったので、いまだ、民たちには信頼されているわけでもありません。ですから、民たちだけではなく、実はヨシュアも新しい出発の前で心細く、恐れているしかありません。私たちが今日ヨシュアと同じかも知れません。また始まった2013年！この新年を新しく出発しようとする我々も今年をどのように生きるべきなのか、思わぬ出来事があったら、どうしようという不安に思っているところがあるかも知れません。不安な状況の中で新しく出発しようとするヨシュアでしたが、聖書を読んで見ると、結果的にはモーセと変わらないほど十分に用いられ、祝福された指導者としての役割ができたわけです。今日元旦礼拝を通して共に成功することができたその秘訣について共に学んで行きたいと思えます。

今日心配し、悩んでいたヨシュアを用いるために召して下さった神様は新しく始まるヨシュアのためどのように成功と祝福の原則を語って下さったのでしょうか。当時ヨシュアに与えられた神様のこの御言葉の原則はヨシュアだけに適用されるのではなくあらゆる時代を生きていくすべての神様の民にも同じく適用されるでしょう。今日の聖書本文には二つの原則を教えて下さっています。

一つ目は、強く、雄々しくあれ。

人は何よりも心が大切です。箴言の御言葉にも心から命の泉が湧き出ると書いてあるほど最も大切なところです。体の傷は目に見えるのですぐふさわしく対応したり、治療することもできますが、心は見えないため大切であることは知っていながらも実際にはかみんじく考えてしまう傾向があります。

人の心が弱くなって来ると、恐れと不安が我々を支配して来ます。一旦、恐れが我々の人生や思いを押し寄せてくると、我々の意識世界は瞬間的に麻痺されます。正常に考えることも、判断することもできなくなります。そういうわけで、聖書は心を強くし、雄々しくあれ。と命じながら同時に恐れないようにと強調しています。おどろくことは聖書全体に恐れるな！という御言葉が何回くらい出てくるのか御存知ですか。正確に365回です。神様は1年365日日々、恐れないようにと教えて下さっているではありませんか。

(ここで、分かち合いましょ: 1. みなさんは昨年を振り返って見ると、みなさんの心はどうだったと思えますか。)

愛するみなさん、問題は今年もさまざまな出来事の中でどうやって恐れないでいられるのかです。そして、どうすれば自分の心を強く、雄々しく守ることができるのかです。神様は単に恐れないで、心を強くするようにと教えて下さるだけではなくそれができる解決の方法まで教えて下さっています。それは二つの態度を持つことです。

(1)我々とともにおられる神様をつねに信頼することです。

その当時、イスラエルの英雄(えいゆう)はモーセでした。神様はヨシュアにこう語っておられます。

“わたしは、モーセとともにいたように あなたとともにいよう。”(5節)

神様は今、モーセが大いに用いられたモーセになったのはモーセの能力や、資質(しじつ)ではなく、神御自身が彼とともにおられたのであると語って下さっています。その神様がいまからはヨシュアとともにおられるのだと約束してく下さっているのです。

その全知全能の神様が我々とともにおられるなら、何を恐れることがあるのでしょうか。しかし、それをある時は、目の前の仕事で忙しかったり、疲れたり、忘れたりするため恐れてしまうのです。イエスキリストを信じた神様の民たちがこの地上で味わえる最高の特権があるなら、それは神様とともに過ごすことです。

愛する信仰の家族のみなさん！ イエス様がどうしてこの地に来られたのでしょうか。新約の始めの福音書であるマタイの福音書1章で御使いがイエス様の誕生を予告します。そして生まれるイエス様のあだ名をのべつたえます。それは“インマヌエル”で、“神様は我々とともにおられる。”という意味です。この意味はクリスマスだけではなく、神様のひとり子が人の子としてこの地に来られた理由は我々とともにおられるためでした。全能者なる神様は我々の人生において具体的にともにおられるために肉体の体をもってこの地に来られたのです。マタイの福音書の初めだけではなく、最後の章である20章28節でイエス様は“見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。”と言われました。我々とともにおられるためにこの地に来られた神様はこの地を離れながらも言われました。世の終わりまで我々とともにおられるということです。“私はいま決して一人ではない！主がここに共におられる！その方が私を助ける！！神様がともにおられるということを手だけではなく、心から信じる瞬間我々は強くなることができます。

(2)自分に対する神様の具体的な約束を常に信頼することです。

神様はヨシュアにどんな約束をされましたか。地に対する具体的な約束をして下さいました。

“あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。強くあれ、雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。”(3,4,6節)

この約束は具体的ものです。決して抽象的なものではありません。神様の約束は神様が私たちに約束されたならば、かならず成し遂げられるのではないのでしょうか。私たちの行く道がどんなにけわしく、苦しみの道だとしても神様の約束があれば、私たちに望みがあり、強くなれるのではないのでしょうか。ですから、私たちは御言葉と祈りを通して自分の欲望ではなく、神様が自分にどんな計画と約束を持っておられるか日々聞いて歩まなければなりません。

神様はみなさんの人生において神様の確かな計画と目的があることを信じますか。神様の御心になかったその計画を成し遂げるため、私たちにかならず約束を下さいます。時々、あきらめなくなり、疲れ果ててつらい時でもその神様の約束を握っていればかならずその障害物を乗り越えて歩むことができると信じます。ヨシュアはその神様の約束をいつも信頼していたためどんなつらい時も、大変な時も忍びながら乗り越えてその約束通り成し遂げ下さる神様の恵みを経験することができたのです。

新しく出発するために 二つ目に、神様の御言葉をつかむことを勧められています。

ヨシュアは新しく出発するためどのように日々考え、行動すればいいのか具体的に教えてくれるものがあつたら、どれだけ助かると思いませんか。まよう事もなく、悩むこともないと思います。神様はそのために彼に具体的な物も与えて下さいました。それは何でしたか。

本文の7,8節では“**律法**”と“**律法の書**”という単語が出ています。ここでの律法もしくは律法の書は十戒を指す狭い意味での律法ではなく**神様の御言葉を意味する広い意味の律法**です。イスラエルの民たちは**神様の御言葉全体を言う時それを“律法”**もしくは**トラ**とも言いました。ですから**律法の書を離れないでということは分かりやすく言うと聖書から離れないようにという意味です**。栄える、成功の人生を望んでいるなら、御言葉をつかんで生きなさいということです。この世には数多くの本が出版され、読まれています。たましいの救いを約束するたった一冊の本があります。あの永遠の御国に対する望みを約束する一冊の本を御存知ですか。いますぐ死んでも神様の御国に入れると言う信仰を約束する一冊の本を御存知ですか。ねじれた人生と苦しみを覆っている人々に向って、苦しみからの解放と癒しと新しい力と希望の回復を約束してくださっている一冊の本を御存知ですか。

今日の本文によると、その一冊の本が神様のトラ、つまり律法です。**今年の成功(神様が言われる成功)を望んでいるなら、この律法の書を口から離さないようにと聖書は命じています**。この神様の御言葉が我々の究極的目標と人生の正しい方向、知恵と力を与えて下さいます。その神様の御言葉をつかんで生きる方法は二つあります。

1)御言葉を読むことです。

“この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。”(8節)

ここで **口から離さず**というのは御言葉を**持続的に読む**ことです。昨年振り替えて見ると、私たちは御言葉中心の信仰、御言葉の大切さはよくしていても、実際には忙しくて、聖書は日曜日だけ開くものではありませんでしたか。自分の思い、考え通り決めて来て、実に聖書が後回しになってしまったことはなかったでしょうか。

口ずさむという単語は読む段階からもっと進んで、黙想とも言えます。本来の意味は“**ただ聖書をざーと読むだけではなく、意図的に聖書を深く考えること**”です。黙想というのはうわべだけの単純な考えではありません。その御言葉を **深くじっくり、噛み砕(くだ)いて考える**ことです。この御言葉は今日の自分の人生にどのように関連付けて適用させればいいのか、じっくり考えなさい。ということです。

2)その御言葉のとおり生きることです。

神様はヨシュアに思い、知恵だけではなく、**具体的にどのように行なうべきなのか御言葉を通して教えて下さいました**。

“**あなたに命じたすべての律法を守り行なえ。…そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである**。”(7,8節)

神様の御言葉を深く黙想し、自分の人生に照らしていただいた後は、その御言葉のとおり生きるようにと心がけることが必要です。

御言葉をそのまま守り、行なって見て下さい。従ってください。来る日曜日、新年感謝礼拝の時は具体的に御言葉に従う時、どんな祝福が与えられるかまた学びたいと思います。

愛するみんな！今年、成功し、幸せな人生、祝福された人生として歩める明確な答えがあれば、人はみんなその通りにやると思います。もし昨年私たちがそのように生きることができなかつたとすればその理由はただ一つだけでしょう。御言葉通りに従わなかつた結果ではないでしょうか。始まった2013年今年！もう一度御言葉通りに実践できるように決断し、心欠けて努力してみましょう。そうするとみなさんの人生は栄え、成功するでしょう。そうするためにはまず、御言葉を読まないといふような行いをすることが御言葉通りの人生であるかわからないはずでしょう。

ただの知識のためにする聖書の学びは最悪の聖書の学びです。自分の人生、生き方への適用や変化のためにする聖書の学びこそ最善の聖書の学びではないかと思えます。神様の御言葉に自分の姿と人生を照らして見て下さい。今のみなさんの姿を聖書をとおしてみるようにしてください。聖書をとおして、自分のどんなところが間違っているのか。自分にはどんなところが変えられ、回復されるべきなのか?と自問してみてください。もちろん、御言葉に従おうとしながらも、今年も失敗したり、あやまちを犯したり、する時もあるかも知れませんが、主が共におられる信仰とその約束を掴んでいる人、主の御言葉から離れず、いつも御言葉に従って行なう人はまた立ち上がれます。偏らず、どちらにそらずに堂々とまっすぐに歩むことができると信じます。

アメリカ人ですが、とつても独特な人生を過ごした一人の方の話をさせてください。彼は22歳に人生初めのビジネスに失敗します。次、23歳に地方の議会選挙に立候補(りっこうほ)しますが、落選します。24歳にふたたび、ビジネスに挑戦しますが、また失敗の繰り返しになります。34歳にもう一度地方の議会選挙に挑戦します。しかし、また失敗してしまいます。38歳に衆議院(しゅうぎいん)選挙に挑戦しますが、また落選します。43歳に再び、衆議院選挙に挑戦しますが、また落選です。46歳には上院(じょういん)議員(ぎいん)選挙に挑戦しますが、また落選です。47歳になる年、副大統領選挙に挑戦しますが、落選です。49歳になる年にもう一度上院議員(じょういんぎいん)選挙に挑戦しますが、落選です。しかし、51歳になる年であった1860年彼はついにアメリカの大統領に当選されます。**彼の名前はアブラハムリンカン**です。彼の友達がリンカンに大統領の当選お祝いのあいさつをまわしながら、こう言いました。“あれほどたくさん失敗したのに、やっと成功されましたね。”するとリンカンは彼の独特の笑顔でこう答えたそうです。“失敗なんて？私に失敗したことはないです。ただ成功のため私に対する神様の計画でした。いままでなめたあなたの苦杯(くはい)はさらに成功と祝福のために大切な経験の蓄積(ちくせき)にすぎません。”アブラハムリンカン！彼は自分の人生の成功を神様が計画されたと言う信仰で走ってきたのです。

メッセージを終らせます。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさん！

聖書知識はすこしかなくても大丈夫です。しかし、聖書から離れないで、聖書をつかんで、御言葉による主の導きを日々いただくみなさんとなりますようお祈り申し上げます。主の導きを受けて生きる人生は豊かな人生です。それこそが祝福です。

神様がともにおられる人生、この御言葉を握って、主からの祝福を味わう2013年になりますよう切にお祈り申し上げます。アーメン！

(分かち合い2.今日の御言葉を通して今年自分が改めて奮発(ふんぱつ)したいところがあつたら何でしょうか。・3.今年の祈り課題)